

第1回周南市地域とともにある学校づくり推進協議会 会議要旨

開催日時：令和7年5月29日（木） 14:00～15:30

開催場所：周南市シビック交流センター2階 交流室1

主催者：周南市教育委員会 学校教育課

参加者：周南公立大学地域共創センター副センター長、小・中学校長会長、公立学校教頭会代表、地域連携担当教職員研修会企画委員会代表者、学校運営協議会会長、PTA連合会代表、地域学校協働活動推進員代表、周南市役所関係各課担当者

1 開会行事

主催者あいさつ（周南市教育委員会学校教育課課長）

2 学校教育課所管説明

（2）今年度の取組

- ・令和7年度の地域連携の方向性（育てたい子ども像や3つの柱（地域学習・キャリア教育・主体性を育む活動）について
- ・令和6年度の取組について
- ・地域連携担当教職員研修会、行政担当者会議について
- ・コミュニティ・スクールに関するアンケート調査について
- ・熟議や地域連携の好事例の共有

（2）昨年度からの課題

- ・熟議に参加した子どもたちの意見や思いを参加していない子どもたちに届ける
- ・子どもが参画できるようにする
- ・より多くの大人（特に保護者世代）の参加を増やす

3 グループ協議・発表

- ・令和6年度に改訂した周南市のコミュニティ・スクールアクションプランをアクションプランの先にある「理想とする姿や行動」から見直し、改善する。

A 児童生徒の理想的な姿

- ・地域に自分の名前を知っている人や、「ありがとう」と言いたくなる人がいる
- ・家や学校以外にも、安心して過ごせたり、やりたいことに挑戦できたりする居場所がある
- ・地域で困っている人を助けることができる、困ったときに地域の大人に相談できる
- ・地域行事等の企画や運営に携わることを通して、将来、地域のために何かやってみたいと思うようになる

B 教職員の理想的な姿

- ・地域・保護者との豊かな関わりやつながりを大切にしている
- ・積極的に地域と関わり、地域のことを知ろうとしている

- ・子どもの地域での成長をイメージでき、学校外での学びの価値を理解している
- ・子どもと共に活動を楽しみ、地域の魅力を伝えたり、地域や企業と協働した教育活動を推進したりしている
- ・子どもの思い出作りを学校行事だけでなく、地域行事の中で実現していく発想の転換も大切

C 地域住民・保護者の理想的な姿

- ・学校の教育活動を理解し、自分の関わり方を把握している
- ・子どもが卒業後も保護者が地域住民として活動に参加できる環境がある
- ・魅力的な地域の人を知り、発信できるようになる
- ・世代を超えた交流行事が活発になり、話題や参加者が増える
- ・子どもの成長を地域全体で喜び合える関係がある
- ・地域の行事等にきた子どもを「よく来たね」と温かく迎えて、子どもが発表や活動をしなくても、「そこにいっただけで参加している」と受け止めることができる
- ・子どもが安心して居られる雰囲気づくりができる

4 講評：山口県教育庁 地域連携教育推進課 主査 森山 義紀 様

- ・県においても、人口減少対策として、県内進学・就職の促進や地域連携教育、ふるさとへの誇りと愛着を育む教育に力を入れている
- ・グループ協議では「人とのつながりの大切さ」「地域の魅力を子どもに伝えること」が重視されていたことを実感
- ・子どもたちが地域の“人・もの・こと”に触れ、地域の思いや願いを直接受け取る機会が重要であり、県としても重視している

講評：徳山エリアCSチーフ 長谷川 敬 様

- ・地域連携教育の成果が出ている地域の共通点は、関係者全員が目標や方向性を共有していること
- ・今日の議論をアクションプランとともに各団体へ伝えてほしい
- ・子どもと一緒に地域と連携した活動を楽しめる教員の姿勢が重要。そして、「認められた」「心が通いあった」などの実感が得られる取組を増やすことが大切

講評：山口県地域連携教育推進協議会代表アドバイザー 木本 育夫 様

- ・地域連携教育において、子ども、先生、地域がそれぞれの立場で理想の姿を考えることが大切
- ・自分たちで考えた目標だからこそ主体的に取り組むことができるので、今後、示された方向性をもとに、各学校で、目標や取組について考える時間をもつことが重要
- ・各学校で先生・子ども・地域それぞれがめざす姿を明確にする場をもつことで、取組の効果が高まる

5 閉会行事

周南市地域とともにある学校づくり推進協議会長あいさつ

～周南公立大学 地域共創センター 副センター長 立部 文崇 様～

- ・既成概念やこれまでの経験はいったん脇に置き、「子どもにとってどうか」という視点を中心に地域連携教育を再考する必要がある
- ・今後は、当たり前と思っていたことも見直し、改めて「子どもにとってどういう成果があるのか」を考えることが大切